



A Prudential plc (UK) company

イーストスプリング インド投資マンスリー

2023年9月号

インド投資マンスリー 動画配信中!



イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第379号 加入協会 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

英国プルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。 最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているプルデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社である プルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

230905 (01)

株式:世界的に株価が軟調な中、インド株式も下落

SENSEX指数の推移 (2021年12月末~2023年8月末、日次)



2023年8月の振り返り

8月のインド株式(SENSEX指数)は、2.5%の下落となりました。 一方、中型株と小型株は、それぞれ2.6%、6.1%上昇し、大型株 をアウトパフォームしました。

セクター別では、特に石油・ガス、銀行、日用消費財が軟調だった一方、耐久消費財とITは4%を上回る上昇でした。

米大手格付け会社フィッチが米国債の信用格付けを「AAA」から「AA+」に一段階引き下げると発表したことで世界の株式市場が下落したことや中国の需要減速、モンスーンの雨量減少などを背景にインフレ率が15ヵ月ぶりの高水準となったことなどが要因です。

売買動向では、海外機関投資家は引き続き買い越し、国内機関投資家も買い越しに転じました。

規模別指数の期間別騰落率 (2023年8月末時点)

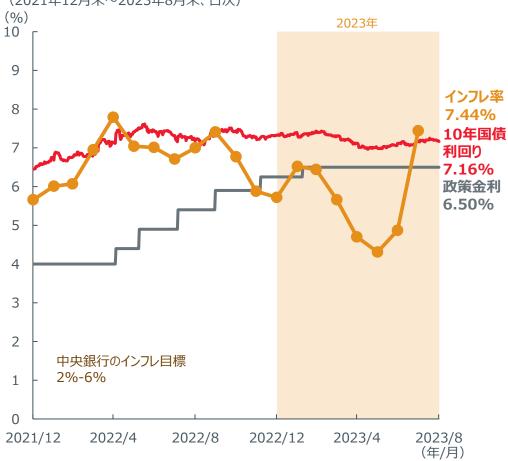
	1ヵ月間	3ヵ月間	6ヵ月間
大型株 (SENSEX指数)	-2.5%	3.5%	10.0%
中型株 (BSE中型株指数)	2.6%	15.1%	29.2%
小型株 (BSE小型株指数)	6.1%	21.7%	35.9%

出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。 ※全てプライス・リターン、インドルピーベース。*終値ベース。

債券:インフレ率は上昇、10年国債利回りはほぼ横ばい

政策金利*、インフレ率**、10年国債利回りの推移





2023年8月の振り返り

10年国債利回りはほぼ横ばいで推移し、7.16%で月を終えまし

月前半は、インフレ率の急上昇によるインド準備銀行(RBI、中 央銀行)の利上げ懸念から売り圧力が強まり、債券価格は下落 (利回りは上昇) しました。月後半は、RBIが実施した国債の追 加入札が予想を上回る需要により好調な結果となったことから、 債券価格は上昇しました。

RBIは10日、政策金利を3会合連続で据え置くことを全会一致 で決定しました。経済成長を支えながらインフレ率を目標値に近づ けられるよう、金融緩和からの脱却に焦点を当てていくことで合意 しました。14日発表の7月のインフレ率は、前年同月比+7.44% と、6月から大きく加速しました。食料品価格が前年同月比 +11.5%と大幅に上昇したことが要因でした。

債券利回りと利回り差の変化幅

	2023年 8月末	2023年 7月末	変化幅
10年国債利回り	7.16%	7.18%	-0.01%
10年社債利回り***	7.64%	7.67%	-0.03%
利回り差	0.47%	0.49%	-0.02%

出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

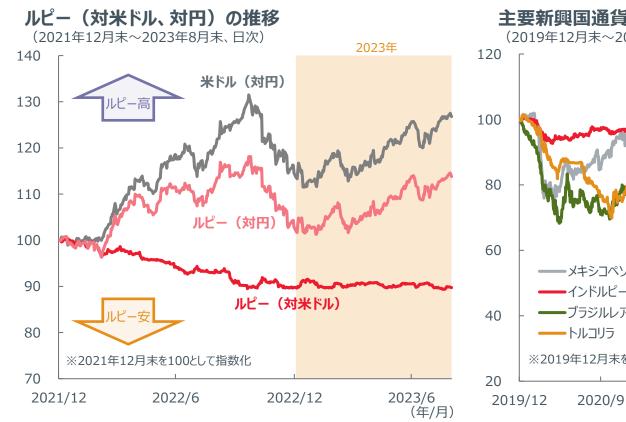
利回り差等については四捨五入の関係で数値間で整合しない場合があります。

^{*}レポ金利、**消費者物価指数(CPI)ト昇率(前年同月比)、同項目のみ月次。新基準(2012年=100)による統計を使用。2023年7月まで。

^{***10}年社債利回りはBloomberg FIMMDA India Corporate Bond Curve AAA 10 Year Corporateの利回りを使用。

為替:ルピーは対米ドルで下落、対円では上昇

- 8月のルピーは、対米ドルで0.6%の下落、対円では1.9%の上昇となりました。
- 2020年以降のルピーの動きをみると、他の新興国通貨と比べて対米ドルで相対的に安定した推移となっています。



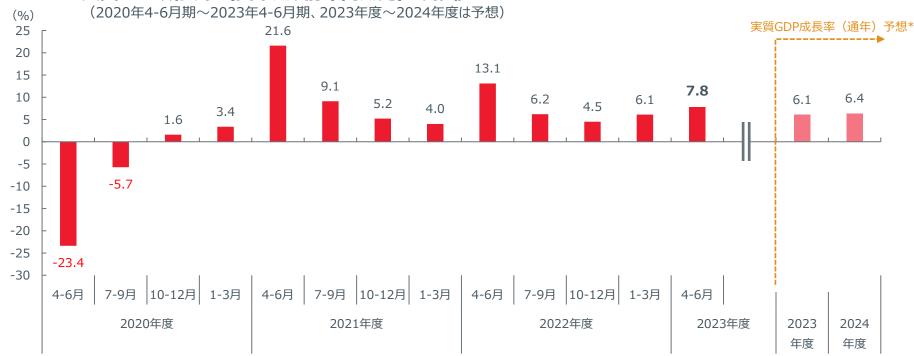


出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

2023年4-6月期の実質GDP成長率、前年同期比+7.8%に加速

- インド政府は8月31日、2023年4-6月期の実質GDP(国内総生産)成長率を前年同期比+7.8%と発表しました。
- 需要項目別では、GDPの約6割を占める個人消費が前年同期比+6.0%と堅調、総固定資本形成(投資)も伸び率は減速したものの同+8.0%と底堅く 推移しました。産業部門別の粗付加価値(GVA)成長率では金融・不動産サービスなどが前年同期比+12.2%、貿易・宿泊・運輸・通信が同+9.2%と大きく伸びるなどサービス業が好調でした。製造業は同+4.7%でした。





出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
*予想はBloombergエコノミスト予想の中央値。2023年8月31日時点。

※インドの会計年度は4月から翌年3月まで。例えば、2022年度は2022年4月~2023年3月。

● この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

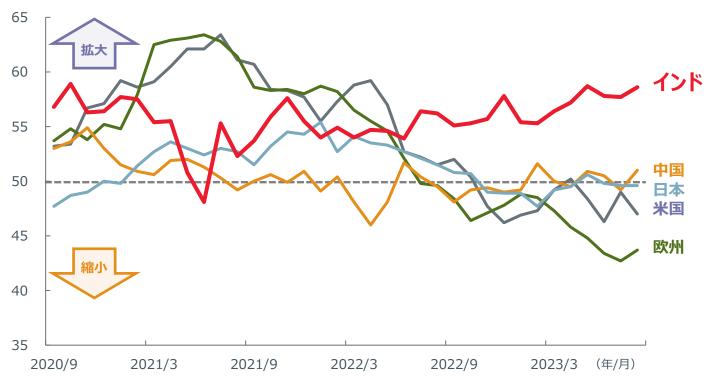


■ インドの8月の製造業PMIは58.6となりました。景気の拡大・縮小の分かれ目となる50を26ヵ月連続で上回っており、主要各国の中でも好調を維持しています。

PMI: 購買担当者景気指数のことで、企業の購買担当者に新規受注や生産、雇用の状況などを聞き取り景況感を指数化した景気指標。特に製造業PMIは鉱工業生産や雇用統計などと比べて、景気動向の変化をいち早く示す指標として市場関係者から注目される。

各国製造業PMI指数の推移

(2020年9月~2023年8月、月次)



出所: Bloomberg.L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベスメンツ作成。



2023年初のユニコーンが誕生! クイックコマースのzepto

- インドで生鮮食品や日用品の短時間配達(クイックコマース)を行っているスタートアップ企業のzeptoは、米国のステップストーン・グループなどから2億米ドルの 資金調達に成功し、2023年初のユニコーン企業*となりました。2021年に設立されたzeptoは、生鮮食品のほか、オムツや洗剤、タバコなど5,000種類以上の 商品を出荷するEコマースを運営しています。(*評価額が10億米ドルを超える、非上場のスタートアップ企業)
- インドの小売市場は、経済成長に伴う可処分所得の増加や都市化、消費者の嗜好の変化を背景に飛躍的な成長を遂げています。また、コロナ禍以降、オンラインで買い物をする人の数が急増、食料品や日用品においても活用する人が増加しています。

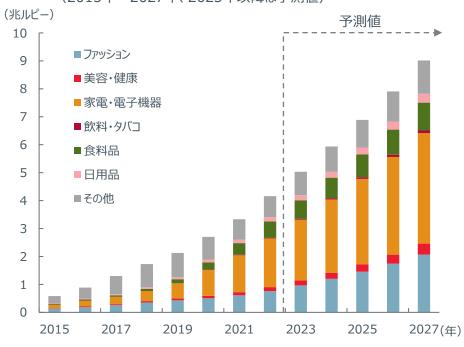
世界の国別ユニコーン企業数ランキング

(2023年7月時点)

(2023+77) 140/147				
	国名	企業数		
1	米国	656		
2	中国	172		
3	インド	70		
4	英国	52		
5	ドイツ	30		
6	フランス	25		
7	イスラエル	24		
8	カナダ	21		
9	ブラジル	16		
10	シンガポール	15		
15	日本	7		
	合計	1,221		

インドのeコマース小売売上高の推移と内訳

(2015年~2027年、2023年以降は予測値)



出所:各種報道、CBインサイツ、Euromonitor International (2023年8月時点)のデータに基づきイーストスプリング・インベスメンツ作成。



- ▶ 当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示 資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。
- ▶ 当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ▶ 当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- ▶ 当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。
- ▶ 当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。